

## 3 ファシリテーターの役割

参加体験型学習活動、「親の学び」講座では、全体の流れを進めていく進行役の役目が大切です。進行役は「講師」とは違い、自分の知識や考えを参加者に伝えることが役目ではありません。

参加者同士の話し合いや作業がスムーズに行われるよう、参加者の様子を見ながら説明や声かけをし、参加者自身が「気づき」を得て何かを学ぶことを助けることが役目です。

このため、専門的な知識や特別な経験がない人も、参加体験型学習活動の進行役になることができます。

### ☆ファシリテーターに求められる3つのこと

#### (1) 場づくり・雰囲気づくり

- ①ファシリテーターは、参加者の人数を確認し、活動形態をどのようにするかを考えます。また、会場の広さや参加者の状況から、パソコン等の情報機器を使用するか否かを考えます。機器を活用した方が効果的な場合とそうでない場合があります。状況把握をしっかり行い、場づくり・雰囲気づくりの第一歩としましょう。
- ②ファシリテーターは、自信を持ってはっきりした声で、ゆっくりと話します。参加者にとって、ファシリテーターの笑顔が1番雰囲気をはげます。
- ③話し合いの前に、「正解や間違いはない」ことを参加者に伝えると、参加者は発言しやすく感じます。
- ④発言の強要はやめましょう。話すことが苦手な参加者もいるので、話せる範囲で話してもらえればよいことを伝えましょう。

#### (2) 主体性の尊重

- ①参加体験型学習活動の主役は、参加者自身であるので、ファシリテーターの説明や話が長すぎて、参加者自身が話す・活動する時間が短くなったり制限されたりすることがないように気を付けましょう。
- ②ファシリテーター自身の考えを押し付けたり、参加者の発言を批判したりしないように心がけましょう。
- ③参加者の意見を無理に一つにまとめる必要はありません。一人一人が気付いたことを大切にするように促しましょう。

#### (3) 流れの調整

##### ①参加者に合わせた進行

- ・参加者が活動や作業の手順などを理解しているかどうか、確かめながら進めましょう。